

長崎市版 DMO 研究会 第 1 分科会 第 2 回議事録 (要約)

1. 日時 平成 29 年 10 月 23 日(月) 10:00~12:00
2. 場所 アマランス第 3 会議室
3. 参加者 アドバイザー：DMO 推進機構 大社代表理事
専門委員：長崎大学経済学部 村田教授
長崎経済同友会 平松副代表幹事
ながさき地域政策研究所 菊森理事長
長崎国際観光コンベンション協会 村木副会長
事務局：長崎市 観光推進課 濱田課長、浦川係長、松山、
交流拡大推進室 長瀬次長
長崎国際観光コンベンション協会 外園本部長、川崎統括部長、
寶珠統括部長、森下部長、
4. 資料 資料 1 長崎観光の新たなステージに向けて
資料 2 長崎市版 DMO の基本戦略
資料 3 長崎市版 DMO の KPI (決算) 項目案
追加資料 「長崎市版 DMO に向けた研究会」に寄せて (菊森理事長作成)

5. 主な議事内容

① 前回の振り返りと資料について (「長崎観光の新たなステージにむけて」)

Q.新幹線の受入れ体制の状況は触れられてないが、具体的な事案があるので、そこに取り組んでいくべきではないのか。

大社氏：乗り換え型にすることでのリスク等が議論されているが、その調査を DMO でやるべきではないのかという議論は長崎市内で出てきている。

A.新幹線スケジュールについては追記する。

(主な意見)

- ・新幹線については H34 年に開始の方向で決まっている。
- ・長崎市の動きは遅いが、10 月に聞き取りを始めている。
- ・鹿児島は把握してはいるが、長崎市の状況の検証はできていない。
- ・経済効果を求めるのも大事だが、実際に観光が増えた時に受け入れることができるのかも検証が必要。
- ・新幹線開業だから人が増えるのではなく、インフラ整備された後にどう受入れて、観光客を増やしていくのか、ということを決めていくのが DMO なのではないか？
- ・システムづくりを DMO という位置づけで認識している。
- ・金沢とはまったく違うので、同じように考えてはいけない。
- ・「winwin の関係」については「観光客」となっているが、「来訪者」と統一し、わかりやすく区別するところは区別する。

(大社氏よりのアドバイス)

- ・「誰もが訪れたい町」という表現は変えた方がいい。世界中の・・・など。
- ・「仕組みをつくる」などの抽象的な表現ではなく明確に具体的に表記する。
- ・KPIに関しても矛盾がないようにつくる。
- ・「DMO」がやることなのか、そうじゃないのか明記すること。直ではやらないが、「こういうことが大事ですよ」という表記へ。
- ・商工会議所などは法律によって立ち位置が決まっている。
- ・観光協会などとのすみ分け等を行う必要がある。
- ・国が「DMO」というものを推進している以上は市内の事業者に「DMO」の位置づけをしっかりと把握させることが必要。
- ・成功事例を求めすぎて、「思考停止」に陥る。地域でしっかりと考えることが必要。

(その他の意見)

Q.DMOとは「走りながら」なのか、「しっかりと決めてから走り出す」のか？

A.政治日程等にもよるが、「走りながら」やるべき。「合意形成」を待ってからではすごく時間がかかる。

Q.DMOの基本理念等は変わってもいいのか？

A.それはアリ。ただし、方向性はブレないように固めておく必要がある。

Q.スポーツコミッションの立ち上げはあるのか？

A.県主導にてやっている。

Q.MICEもスポーツ込で動いているのか？

A.動いているが、積極的ではない。

Q.グリーンツーリズムをDMOへ投げるのは可能か？

A.可能ではある。

A.もし任せられるようなのであればいいと思う。

※“官”だからこそできているものをDMOが引き受けてできるのか？という問題がある

Q.DMOへ様々な権限を持たせて、役所の役割も兼ねていったとして、何か問題があるのか？

A.行政に残る仕事もあるが最終的に問題ないと思う。ただし、説明や権限等についての疑問は残る

DMOは舵取り役になるべき。しかし、役割分担については限定的なものになり、「ゴール」を決めて、そこまでに誰が何をどこまでやるかの「KPI」を設定することが必要。

PDCAのサイクルを回す司令塔がDMOというふうになるべき。

以上